

優先的にICT活用のための
リテラシー向上を図る必要がある
年齢層の特徴を踏まえた
啓発コンテンツの作成・活用等

報告書

2025年3月31日

Agenda

(1) 優先セグメントごとのコンテンツ開発

➤ ㊦ 優先セグメント向けコンテンツの作成

㊧ 生成AIに関する内容を含めたコンテンツ作成

㊨ 啓発コンテンツを掲載するホームページのHTML作成

(2) 教える人向けコンテンツ開発

㊩ 教える人材を育成するためのコンテンツ開発

(3) 検定コンテンツの開発

㊪ 検定コンテンツの作成/参考となる手引書の作成

(4) 周知広報

㊫ 幅広い世代に対して注目を集めることのできる
訴求力の高い手法の企画・作成・活用

㊬ PFer等関係者との連携による集中的な周知広報

学習効果を高める為のKSFを鑑み、コンテンツを作成

学習効果を高める為のKSF

コンテンツ作成時のKSF

優先セグメントの啓発コンテンツの学習効果を高める為に用いる



① 学習目的の明確化

講義冒頭で学習目的をわかりやすく提示し、当該分野の学習の重要性を各生徒が十分理解できるようにする

- 「講義を終えた後はXXができる」などわかりやすく示すことが鍵
- 損失回避性を利用したホラーストーリーの提示も効果的
 - 特に保護者など、「自分は知っている」と自己認知している層に効果的



② キャッチーなデザイン

特に低年齢向けには、テキスト量を減らし、図や絵を活用する

- アンカー効果を活用し、キャッチーなタイトルで関心を喚起
- 特に重要な箇所は、図や絵 / ストーリーを用い解説



③ マルチモーダル/インタラクティブな学習

テキストベース / 音声ベース (ビデオ・ポッドキャスト) の学習を効果的に織り交ぜる

一方的な講義形式だけでなく、クイズやゲームなどのインタラクティブな演習やテストを取り入れる

- 学習目的の提示> レクチャー> 演習> レクチャー> まとめ> 小単元テスト> 単元全体のテストの順が効果的

コンテンツデリバリー時のKSF

教える人向けコンテンツに教え方のポイントとして効果的な手法を解説する



④ 議論・実践の場の確保

教材でのレクチャーや演習と、教材に基づくグループディスカッションや、実世界での実践をループさせ、学習者の学習意欲/必要性を高める



⑤ エンカレッジメント

生徒毎の達成度や成長に対し、講師からのコメントやフィードバックを通し、生徒のやる気を刺激する

学習コミュニティを形成し、学習者同士で励まし合う



⑥ 到達度の可視化

学習の進捗や到達度を可視化し、学習途中での離脱を防ぐ

- レクチャー前/後の検定の実施
- (複数回の場合) 各回の学習進捗の可視化

啓発コンテンツ作成にあたっては、心理学的なナッジを取り入れることで、学習効果を高める工夫を行う

啓発コンテンツに取り入れるナッジ一覧

ナッジ	ナッジの説明	啓発コンテンツへの活用方法
アンカー効果	最初に提示された情報が基準となり、その後の判断や決定に影響を与える効果	「大麻は危険」「うその情報もたくさん存在する」等 キャッチーなメッセージを先に説明 新しい概念を導入する際、まず簡単な例や基本的な情報を提示し、その後に詳細や複雑な情報を追加することで、学習者が新しい情報を理解しやすくなる
損失回避性	人々は利益よりも損失を回避することに強く反応する傾向がある	ホラーストーリーを示す 学習の重要性を強調する際、知識を持たないことで失われる機会やリスクを示すことで、学習の動機付けを高める
スキャフォールディング効果	教育者が学習者の理解を助けるために、段階的なサポートを提供することで、徐々に自立した学習を促す方法	作成・編集パートでは丁寧に説明するパートと、自分で工夫してみるパートを組み合わせ 初めは具体的な指示やガイダンスを提供し、徐々にサポートを減らしていくことで、学習者が自分で考えられるように促す
テスト効果	テストを受けることで学習内容の記憶が強化される現象	定期的な小テストやクイズを組み込む 学習者が自分の理解度を確認し、記憶を強化する機会を提供
ピークエンド効果	経験の中で最も強烈な瞬間 (ピーク) と最後の瞬間 (エンド) が全体の記憶に強く影響する効果	強調 + 復習を組み込む 教材の中で重要なポイントや学習のハイライトを強調し、最後に要約や重要な復習を行うことで学習者の記憶に残りやすくする
認知負荷理論	人の認知資源には限りがあり、過剰な情報は学習を妨げる可能性がある	画像や動画を多めに活用 学習者に提供する情報量を適切に調整し、視覚的なサポートやシンプルなデザインを用いることで、理解を促進

教材 (啓発コンテンツ) の形式としては、総務省HPにてPDF・PPTを配布の上、動画は総務省Youtubeで公開

教材一覧

● 啓発教育教材

総務省 特集ページ内で表示の上、PDF・PPTを配布

- 啓発教育教材 青少年向け (PDF, PPT)
- 啓発教育教材 保護者向け (PDF, PPT)
- 啓発教育教材 シニア向け (PDF, PPT)

● 動画

YouTubeで公開、特集ページ内に再生リストのリンク設置

- 青少年向け ショート動画
- 保護者向け ショート動画/音声説明付き動画 (全編)
- シニア向け ショート動画/音声説明付き動画 (全編)



啓発教育教材 青少年向け

「5つの分野のICTリテラシーを学ぼう 青少年の皆さまへ」



各層への啓発ポイントを踏まえて教材を作成

SNSで募集している怪しいバイトは、だれが募集をしているか分からない

楽に稼げそうなバイトを見つけた! メッセージを送ってみよう

家族にも警察にも相談できない...

身分証明書の写真をおどされ、逆らえなくなり、罪を犯すことに

参考: 警察庁「いわゆる「闇バイト」の危険性について」
<https://www.npa.go.jp/bureau/safetylife/yamibaite/hanzoishaboshu.html>

29

B |トラブルへの対応

保護者と相談しながら、フィルタリングやスマホの機能を活用しよう

マンガサイトを見たら、突然60万円も請求された!

フィルタリングで有害・違法サイトへのアクセスを事前に防げる

ゲームから一日中離れられず、生活に影響が...

スマホの機能で保護者と一緒に適切な使用時間を相談できる

参考: 総務省「上手にネット付き合おう!安心・安全なインターネット利用のガイド」 特集ページ「フィルタリングサービス」
https://www.soumu.go.jp/ise_the_internet_wisely/special/filtering/

42

青少年向け ショート動画

ストーリー概要

① 闇バイト

- SNS上で「簡単に稼げるバイト」と投稿されていても、犯罪に関連した仕事の可能性がある
 - 「高額」「即日現金」「ハンドキャリア」等の言葉に注意。楽をして大金を稼げるアルバイトは存在しない
 - 身分証写真を要求されたり、匿名性の高いメッセージアプリの導入を求められる
- 個人情報も要求されても、渡さないよう注意する
- メッセージや個人情報を送ってしまったなど、危ないと思ったら、すぐに保護者や警察に連絡する
- 犯罪に巻き込まれないようテラシーを身に付けよう

② アテンションエコノミー

- インターネットでは注目を集めるため、過激なタイトルで拡散を狙う広告が多い
- 事例紹介
 - ①過激なタイトルのSNS投稿の例
 - ②誇大広告の例
- 拡散されているからといって、信頼できる情報とは限らないため、すぐにうのみにならないよう注意
- 情報を発信する際も投稿してよいか一呼吸おいて考えることが重要

③ ニセ・誤情報

- 一人ひとりのSNSの使い方が社会に大きな影響を与える
- ニセ・誤情報が引き起こす社会への悪影響
 - 災害対応の妨害事例
- 本当か分からない情報は拡散しない情報が正しいか考える、拡散前に立ち止まる

動画

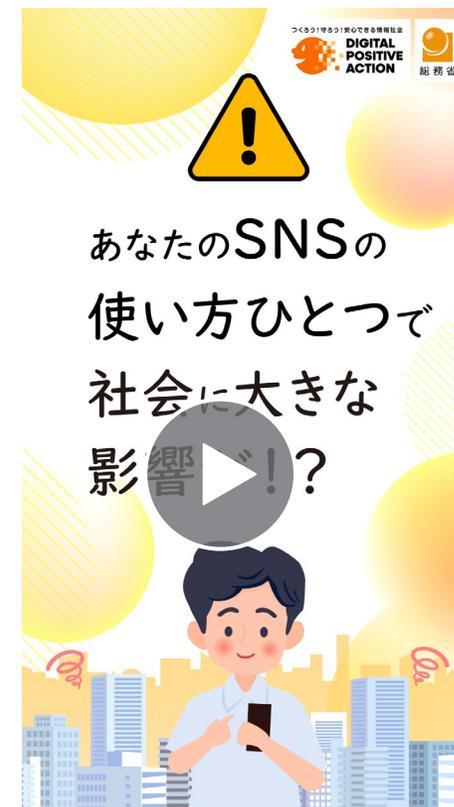
第一話「簡単に稼げるバイト・・・？
闇バイトに注意！」



第二話「注目を集める過激な
タイトルの広告・情報・・・
アテンションエコノミーを知って
いますか？」



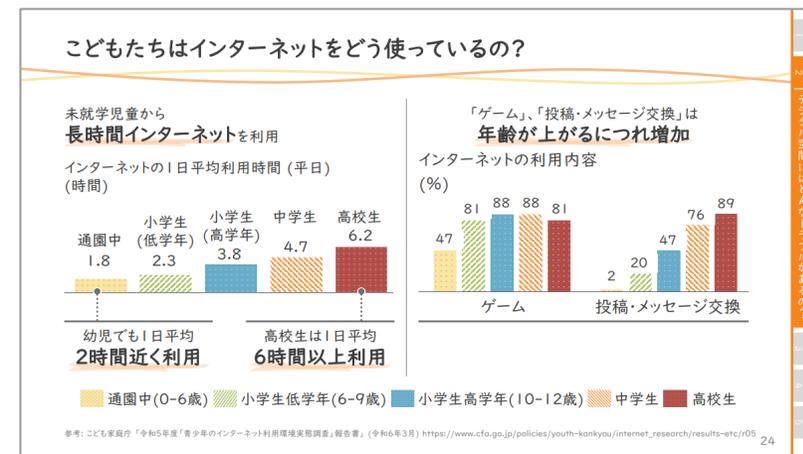
第三話「SNSの使い方ひとつで、
社会に大きな影響が・・・
ニセ・誤情報に注意！」



啓発教育教材 保護者

「5つの分野のICTリテラシーを学ぼう 保護者の皆さまへ」

各層への啓発ポイントを踏まえて教材を作成



B |トラブルへの対応

子どもが安全に使えるように、利用環境を整えサポートしよう

ペアレンタルコントロール

子どもたちが安心・安全に利用できるよう、保護者も一緒に学び、取り組むことが大切です

スマホ依存や使いすぎ防止の設定

- ペアレンタルコントロール機能で利用時間、購入やダウンロードを管理

家庭内のルールづくり

- 子どもと一緒にルールを決めて、家族みんなで見守る環境作り



保護者向け ショート動画

ストーリー概要

① ペアレンタルコントロール

- こどもは成長途中にある存在であり、保護者が導いていくことが必要
- ペアレンタルコントロールやフィルタ設定がこどもをトラブルや有害な情報から守るのに有効な事例や具体やり方を紹介

② 闇バイト

- バイトと投稿されていても、犯罪の可能性があること
- 個人情報渡さないなどのこどもへ注意を促すこと

③ ニセ・誤情報 (保護者・シニア共通)

- 一人ひとりのSNSの使い方が社会に大きな影響を与える
- ニセ・誤情報が引き起こす社会への悪影響
 - 災害対応の妨害事例
- 本当か分からない情報は拡散しない
情報が正しいか考える、拡散前に立ち止まる

動画

ペアレンタルコントロールで安心・安全に使おう! 



簡単に稼げるバイト・・・? それ闇バイトかもしれません! 



あなたのインターネットの使い方が社会に大きな影響をもたらします・・・ニセ・誤情報に注意! 



保護者向け 音声説明付き動画 (全編)

概要

啓発教材を自分で学んでもらえるよう、啓発教材の各頁を音声にて説明した動画を作成
動画は各PARTごとに作成し (計5本)、Youtubeで公開

動画一覧

ICTリテラシーを身につけよう (保護者向け) 

- PART1 デジタル空間の特徴って何？
- PART2 デジタル空間にはどんなトラブルがあるの？
- PART3 自分や周囲の人をトラブルから守るためには？
- PART4 社会をリスクから守るためには？
- PART5 デジタル技術を活用すると何が出来る？

動画

保護者向け動画 PART1
デジタル空間の特徴って何？

保護者向け動画 PART2
デジタル空間にはどんな
トラブルがあるの？

保護者向け動画 PART3
自分や周囲の人をトラブルから
守るためには？

保護者向け動画 PART4
社会をリスクから
守るためには？

保護者向け動画 PART5
デジタル技術を活用すると何が
出来る？



保護者へのインタビュー結果を踏まえ、特に重要なペアレンタルコントロールや青少年からの相談先としてのリスク対応に必要な要素に絞りビラを作成

保護者むけビラの作成方針

作成方針

- 位置づけ**
- 保護者のICTリテラシー向上のための啓発コンテンツの補助資料として作成
 - 隙間時間で見れる簡易な資料の方が見やすいというインタビュー結果を踏まえ、サマリ資料として1-2ページのビラを作成

- 配布形式**
- 印刷物としてのビラ配布
 - 保護者会、PTAでの配布
(保護者は学校からの発信に目を通しやすい)
 - 自治体広報誌等での掲載
 - データとしての配布
 - 啓発コンテンツと同様総務省HPで配布

- 成果物イメージ**
- 縦書き A4 x 2枚を想定
 - 色、イラスト多めで見やすいデザイン

コンテンツの全体構成

- 内容構成**
- 保護者向けインタビューを踏まえビラの記載事項を整理
- デジタル空間の特徴とリスク
 - ネットの仕組みや特性に関する基本理解とネット上のリスク対処方法
 - ペアレンタルコントロールとフィルタリング
 - トラブルにあったときの相談先

保護者向けチラシ

つくるう！守るう！安心できる情報社会



安心・安全なインターネット利用のために

保護者が知っておくべき ICTリテラシー

デジタル空間の特徴とリスク

子どもたちが、新しいトラブルにも、どう対応すればいいか自分で考え、柔軟に対応できるようになり、スマホやインターネットを安心・安全に利用できるよう保護者も一緒に学びましょう。

ポイント1

一度投稿した情報は残り続ける



個人情報流出のリスクに注意！

- SNSの投稿で住所が明らかになりストーカー被害に...
- インターネットで知り合った人に、自撮り写真を送ったら拡散するとおどされ、お金を要求された...

ポイント2

年齢・性別などを出さなくてもよい



インターネット上でやりとりした人にだまされたり、加害者になってしまわないよう注意！

- SNSで知り合った人と実際に会ってみたら、年齢・性別を偽っていてストーカー被害や事件に巻き込まれることに...

ポイント3

興味を持ちそうな内容が表示される



スマホやインターネットを使いすぎしてしまう可能性！

- 自分の興味のある動画が検索履歴などをとて次々に表示されて、見続けてしまい、生活や健康面に影響が...

ポイント4

受け取る情報が偏っているかも



気づかないうちに、偏見や差別につながる可能性！

- SNSに自分の意見を投稿すると、自分が好み情報や似た意見ばかりが表示されるようになり、多様な意見に触れにくくなる...

ポイント5

極端な情報ほど注目される



情報をうのみにしない、投稿する際も慎重に！

- 「飲むだけでやる」といった、誇大広告にだまされる...
- 注目を集めるために、悪ふざけなどの不適切な動画を過激なタイトルをつけて、SNSに投稿をする...

⚠️ ニセ・誤情報にだまされないように注意！

ニセ・誤情報とは、意図的に作られたニセ情報と誤解により拡散された誤情報という意味です。ニセ・誤情報にだまされると、社会に大きな悪影響を与える可能性があります。

- 災害時には、SNSに複数のニセの救助依頼が投稿され、それをもとに警察・消防が出勤して混乱すること...



▶裏面では具体的な対策方法を紹介します

啓発教材(保護者向け)の詳細はこちら



子どもが安全に楽しく使うためにペアレンタルコントロールを忘れずに！

トラブルを避けて上手に使いこなすスキルを身につけるには、フィルタリングをはじめとするペアレンタルコントロールが必要不可欠です。日頃から、保護者が利用環境を整えてあげましょう。

ペアレンタルコントロールとは、子どもがインターネットを安全に利用できるように、保護者が利用環境を整えてあげることです

スマホ依存や使いすぎ防止の設定

- スマホのペアレンタルコントロール機能で、利用時間、購入やダウンロードを管理

iOS

スクリーンタイム/
ファミリー共有



Android

Digital Wellbeing/
ファミリーリンク



家庭内のルールづくり

- 子どもの意見も聞いて、一緒にルールを決めよう
- 習慣付けのため「ルールを守れなかったらどうするか」を決めよう
- 子どもの成長に合わせて定期的に見直そう

ルールの例

- “利用は1日〇〇時間までにする”
- “食事中や会話中は使わない”
- “ネットで知り合った人を簡単に信用しない”

フィルタリング

フィルタリングとは、子どもを違法・有害情報との接触から守り、安心・安全なインターネット利用を手助けするサービスです

- 犯罪、薬物、詐欺、アダルトといった違法・有害サイトへのアクセスや、年齢に過ぎないアプリの利用を阻止
- また、アプリの利用状況の確認や、利用可能時間の設定が可能

設定のカスタマイズ

- 子どもの年齢や、家庭のルールに応じて、設定をカスタマイズすることが可能
- 携帯電話事業者をはじめとして様々な事業者がフィルタリングサービスやアプリを提供



左から）あんしんフィルター for docomo (NTTドコモ)、あんしんフィルター for au (KDDI (au))、あんしんフィルター for SoftBank (ソフトバンク)、あんしんコントロール by T-Mobile (楽天モバイル)

オン・オフの切り替え

- オン・オフの切り替えは簡単に操作可能
- 保護者のスマホにもフィルタリングを導入し、低学年の子どもにも端末を貸す/おさがりの端末を子どもが使う場合に、設定をオンに

もしトラブルにあってしまったら

違法有害情報や誹謗中傷被害にあったとき

- 違法・有害情報相談センター (総務省)
<https://ihaho.jp/>
- 誹謗中傷ホットライン (一般社団法人セーフインターネット協会)
<https://www.saferinternet.or.jp/bullying/>

インターネット上の悩みを相談したとき




まもろうところ (厚生労働省)
<https://www.mhlw.go.jp/mamorouyokokoro/>



ネットの誹謗中傷や書き込みの削除・相手の特定、相談等を行っています。

生きるのがつらいほどの悩みや不安を抱えている方に対して、気軽に相談できる窓口を紹介しています。



啓発教育教材 シニア向け

「5つの分野のICTリテラシーを学ぼう シニアの皆さまへ」



各層への啓発ポイントを踏まえて教材を作成

インターネットの情報を安易に信じると詐欺などに巻き込まれる可能性も

SNSで知り合った有名な会社社長の秘書を名乗る人から連絡がきた

〇〇の社長秘書です

特別な投資しませんか?

なりすまし詐欺とは、メールや電話で信頼させ、金銭などをだまし取る犯罪

よくある手口は他にも...

- 親族、警察官などを装う
- 未払い料金などの架空請求メールを送る

ウソの身分をかたった、なりすまし詐欺の可能性も!

受信メールは送り主を確認! 少しでも不安を感じたら家族や警察に相談しよう!

参考: 警察庁「警察庁-SOS47特殊詐欺対策ページ SNS型投資詐欺」<https://www.npa.go.jp/bureau/safety/life/sos47/case/sns-romance/investment/>

27

情報を検索・閲覧できるサービス

検索サービス

- 調べたいことに関連するキーワードや画像などで検索し、情報を閲覧できる

地図アプリ

- 行きたい場所がどこにあるのか、交通手段や行き方を調べることができる

AIチャットボット

- 質問を入力すると、AIチャットボットが回答する

サービス利用を通じて身に付くリテラシー

- c-1 インターネット検索の仕組みを知って、必要な情報を探するための方法を理解する
- c-3 デジタルツールやサービスを使って、社会の問題を解決したり、役立つことをする
- d-4 コンピュータをうまく動かすために、必要な指示を出す

65

シニア向け ショート動画

概要

① なりすまし詐欺

- メールや電話で正体を偽り、お金をだまし取る詐欺であること
- 具体事例を紹介。メールの送り主などへ注意すること、怪しいと思ったら家族や警察に相談すること

② ロマンズ詐欺

- インターネット上で身元を隠して接触し、好意を利用してお金をだまし取る詐欺であること
- お金を渡すように要求されたら、家族や警察に相談すること

③ ニセ・誤情報 (保護者・シニア共通)

- 一人ひとりのSNSの使い方が社会に大きな影響を与える
- ニセ・誤情報が引き起こす社会への悪影響
 - 災害対応の妨害事例
- 本当か分からない情報は拡散しない
情報が正しいか考える、拡散前に立ち止まる

動画

特別な投資教えます・・・それ、なりすまし詐欺かもしれません！ 



あなたはだまされていませんか？ロマンズ詐欺に注意！ 



あなたのインターネットの使い方が社会に大きな影響をもたらします・・・ニセ・誤情報に注意！ 



シニア向け 音声説明付き動画 (全編)

概要

啓発教材を自分で学んでもらえるよう、啓発教材の各頁を音声にて説明した動画を作成
動画は各PARTごとに作成し (計5本)、Youtubeで公開

動画一覧

ICTリテラシーを身につけよう (シニア向け) 

- PART1 デジタル空間の特徴って何？
- PART2 デジタル空間にはどんなトラブルがあるの？
- PART3 自分や周囲の人をトラブルから守るためには？
- PART4 社会をリスクから守るためには？
- PART5 デジタル技術を活用すると何が出来る？

動画

シニア向け動画 PART1
デジタル空間の特徴って何？



シニア向け動画 PART2
デジタル空間にはどんな
トラブルがあるの？



シニア向け動画 PART3
自分や周囲の人をトラブルから
守るためには？



シニア向け動画 PART4
社会をリスクから
守るためには？



シニア向け動画 PART5
デジタル技術を活用すると何が
出来る？



Agenda

(1) 優先セグメントごとのコンテンツ開発

㊦ 優先セグメント向けコンテンツの作成

➤ ㊧ 生成AIに関する内容を含めたコンテンツ作成

㊨ 啓発コンテンツを掲載するホームページのHTML作成

(2) 教える人向けコンテンツ開発

㊩ 教える人材を育成するためのコンテンツ開発

(3) 検定コンテンツの開発

㊪ 検定コンテンツの作成/参考となる手引書の作成

(4) 周知広報

㊫ 幅広い世代に対して注目を集めることのできる
訴求力の高い手法の企画・作成・活用

㊬ PFer等関係者との連携による集中的な周知広報

コンテンツ要件である「生成AIに関するリテラシー」については、Part4,5に取り入れる

生成AIに関する記載内容の概要

目次

PART1 デジタル空間の特徴って何？

PART2 デジタル空間にはどんなトラブルがあるの？

PART3 自分や周囲の人をトラブルから守るためには？

PART4 社会をリスクから守るためには？

- ニセ・誤情報の存在・増加原因
 - ニセ・誤情報が増えている背景として、生成AIの特徴である、によりニセ画像などを簡単に作成可能になったことや、裏付けのない、正しくない回答をする場合があることがあげられる
- 情報の正誤確認
 - 正しい情報を得るためには信頼できる情報源かどうかを確認することが重要。逆画像検索などを活用

PART5 デジタル技術を活用すると何ができるの？

- デジタル技術の発展
 - AI技術にて、複雑な問題を解決したり、新しいアイデアを考えてくれる可能性がある
- WEBサービス (AIチャットボット)
 - 質問を入力すると、AIチャットボットが回答するなどのWEBサービス

教材内の該当箇所 (一例)

生成AIに関する内容も最新の状況をふまえて作成

ニセ・誤情報は、SNSの普及や生成AIの発展により、増えてきている



ニセ情報

意図的／意識的に作られたウソの情報



誤情報

かんちがい／誤解により拡散した間違い情報

増加の背景

- 簡単にニセ画像・映像・音声・ニュース記事などを作成できるため (生成AIの特徴)
- 裏付けのない、正しくない回答をする場合があるため

※参考: 総務省「上手にネットを付き合おう①-安心・安全なインターネット利用ガイド- 特殊ページ インターネットの向き合い方-ニセ・誤情報にだまされないために-第2版」
https://www.soumu.go.jp/ise_the_internet_wisely/special/nisegojohou/

今後もデジタル技術は発展し、私たちの暮らしを豊かにする

<p>AI技術</p> <p>複雑な問題を解決したり、新しいアイデアを考えてくれる</p> 	<p>メタバース空間*の広がり</p> <p>距離が離れた相手とも、現実と変わらない感覚で交流できる</p>  <p>※インターネット上の空間で交流したり活動できる新しい仮想世界</p>	<p>AR/VR*</p> <p>仮想空間に没入した気分を味わえる</p>  <p>※現実の世界に、仮想世界・空間、デジタルコンテンツを重ねて見れるデジタル端末</p>
<p>スマートシティ*の実現</p> <p>都市全体のデータを活用して、環境に優しく安全に暮らせる</p> 	<p>移動手段の発達</p> <p>自動運転で、誰でもどこでも移動しやすくなる</p> 	<p>IoT・ロボットとの共生</p> <p>家電を遠くから操作したり、ロボットが生活を助けてくれる</p> 

※デジタル技術で暮らしをより便利で安全にした街

※参考: 内閣府 科学技術政策「Society 5.0」https://www8.cao.go.jp/ict/society5_0/index.html
 総務省 情報通信政策「2020年版 令和元年版 情報通信白書のとりまとめ」最終版(令和元年6月23日)https://www.soumu.go.jp/main_content/000888371.pdf

Agenda

(1) 優先セグメントごとのコンテンツ開発

㊦ 優先セグメント向けコンテンツの作成

㊧ 生成AIに関する内容を含めたコンテンツ作成

➤ ㊨ 啓発コンテンツを掲載するホームページのHTML作成

(2) 教える人向けコンテンツ開発

㊩ 教える人材を育成するためのコンテンツ開発

(3) 検定コンテンツの開発

㊪ 検定コンテンツの作成/参考となる手引書の作成

(4) 周知広報

㊫ 幅広い世代に対して注目を集めることのできる
訴求力の高い手法の企画・作成・活用

㊬ PFer等関係者との連携による集中的な周知広報

特集ページ「5つの分野のICTリテラシーを学ぼう～つくろう！守ろう！安心できる情報社会～」 (https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/special/Icrliteracy_for_yps/)

The screenshot shows the top navigation bar of the website with the title '上手にネットと付き合おう!' and the subtitle '安心・安全なインターネット利用ガイド'. It includes a search bar, a font size selector (大, 中, 小), and accessibility icons. The main navigation menu contains: 未就学児・未就学児の保護者, 青少年(U18), 保護者・教職員, シニア, インターネットトラブル事例集, **特集ページ** (highlighted), 動画コンテンツ集, and リンク集.

The breadcrumb trail reads: TOP > 特集ページ > 5つの分野のICTリテラシーを学ぼう～つくろう！守ろう！安心できる情報社会～.

A blue button labeled '特集ページ' is centered on the page.

【啓発教育教材】

5つの分野のICTリテラシーを学ぼう～つくろう！守ろう！安心できる情報社会～

本ページでは、デジタル空間での特性を理解し、新たな課題にも対処できるICTリテラシーについて、最新の事例も用いながら世代別（青少年向け、保護者向け、シニア向け）の特徴を踏まえて紹介しています。ぜひご活用ください。

【啓発教育教材 青少年向け】

The bottom section features three columns of content:

- デジタル技術は発展し、私たちの暮らしを豊かにする**
 - メタバース空間の広がり: 距離が離れた相手とも、リアルと変わらない体験を共有できる。
 - AR/VR: 仮想空間に没入した気分を体験できる。
- 便利なWEBサービスをどのくらい使ったことがあるかチェックしてみよう**
 - 1 検索サービス
 - 2 地図アプリ
 - 3 オンライン会議サービス
- 情報を検索・閲覧できるサービス**
 - 検索サービス: 調べたいことに関連するキーワードや画像などで検索し、情報を閲覧できる。
 - サービス利用を通じて身に付く: インターネット検索の仕組み: 必要な情報を探そう。

Agenda

(1) 優先セグメントごとのコンテンツ開発

- ㊦ 優先セグメント向けコンテンツの作成
- ㊧ 生成AIに関する内容を含めたコンテンツ作成
- ㊨ 啓発コンテンツを掲載するホームページのHTML作成

(2) 教える人向けコンテンツ開発

➤ ㊩ 教える人材を育成するためのコンテンツ開発

(3) 検定コンテンツの開発

- ㊪ 検定コンテンツの作成/参考となる手引書の作成

(4) 周知広報

- ㊫ 幅広い世代に対して注目を集めることのできる訴求力の高い手法の企画・作成・活用
- ㊬ PFer等関係者との連携による集中的な周知広報

多様な担い手が講義をできるよう、教材の狙いや指導方法の解説書を作成

「講師向けガイドライン (世代別)」

教材の狙いや指導時の心がけなどに加え、講師用の説明例文や講義で意識してもらいたいポイントを紹介

つくる！守ろう！安心できる情報社会
DIGITAL POSITIVE ACTION

5つの分野の ICTリテラシーを学ぼう

講師用ガイドライン 青少年向け講座

講師用ガイドライン 保護者向け講座

講師用ガイドライン シニア向け講座

教材のゴールと伝えたいメッセージ

① 安全にデジタル技術や情報を活用し、課題を解決できる

伝えたいメッセージ

- デジタル空間の特徴を理解することで、課題に対する柔軟な対応力を身につけ、責任ある行動がとれるようになってもらう
- デジタル技術が、暮らしを豊かにする可能性を知ること、前向きな気持ちを育み、すぐに取り組める具体的な活用方法を知ってもらう

2

講座実施時のポイント

- デジタル空間の特徴**
特徴を理解することで、新たな課題にも対処できる能力を身につける
- 身近なテーマ**
ペアレンタルコントロールなど、保護者の皆さまにとっても身近なテーマや最新事例を学べる
- 対話型の講義**
受講者との意見共有や、質問、振り返りを通じて一緒に考える
ICTリテラシーチェックテストも活用しましょう

7

教材の構成

教材の目次	各PARTの目的
PART 1 デジタル空間の特徴って何？	デジタル空間の特徴を、身近な事例と共に理解することで、柔軟な対応力を身につけ、とるべき行動を知ってもらう
PART 2 デジタル空間にはどんなトラブルがあるの？	子どもが会いやすいトラブルを紹介し、フィルタリングの活用や家庭内ルール作りなどを実践してもらう
PART 3 自分や周囲の人をトラブルから守るためには？	情報発信時の注意や、トラブルに対応する具体的な行動を理解してもらう
PART 4 社会をリスクから守るためには？	ニセ・誤情報は何かを理解し、情報を適切に扱う力を身につけてもらう
PART 5 デジタル技術を活用すると何が出来るの？	デジタル技術を活用した便利なサービスを知り、積極的に活用してもらう

5

講師の説明例文 (教材 P2)

投影スライド

説明例文

まずはじめに、子どもの身の回りでおきた出来事について少し考えてみてください。みなさんは、子どもがインターネットを使っていて、ほっとしたことはないでしょうか？

例えば、「子どもがSNSに誤って投稿した写真がクラスの友達に広まってしまった」、「夜中にずっとスマホを見ていたようで翌朝起きられなくて学校に遅刻した」、などといったことはなかったでしょうか？

こうしたほっとした体験は、デジタル空間のどんな特徴からくるものなのでしょうか？

クリック

講義で意識したいポイント

- 講義の冒頭に身近な体験について聞かせることで、自分ごととして捉えやすくし、興味を持って学習に取り組めるようにしましょう。
- 「他にもどんな体験がありますか？」などと問いかけ、ウォーミングアップとしても利用ください。

10

教材チラシ

総務省
つくるろ！守るろ！安心できる情報社会
DIGITAL POSITIVE ACTION

教材のご案内

ICTリテラシーを学ぼう

総務省では、青少年、保護者、シニアのみならずを対象に、これからのデジタル社会において必要となるICTリテラシーを身につけるための教材を公表しています。
また、教材に加えて、学習の成果を確認できるチェックテストや教材制作者向けの解説書、教える人向けのガイドラインも用意しています。合わせてご活用ください。

学習者向け

教材 青少年 / 保護者 / シニア 向け

各世代に合わせた最新テーマ/事例を扱っています
例) 青少年向け 闇バイトなど

デジタル空間の特徴やトラブルへの対処法、便利な使い方を学ぼう





チェックテスト 全世代共通

必要なレベルに到達できているか、理解度をチェック

○×クイズで自分のリテラシーを確認しよう





教える人向け

講師用ガイドライン 教える人向け

教材のゴールやメッセージを分かりやすく伝えよう





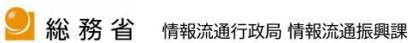
指導時に意識して伝えたいポイントや、説明例文などを各世代別の講義ごとに用意

解説書 教える人・教材制作者向け

リテラシーの全体像を把握して、講義や教材に取り入れよう



リテラシーの5能力領域・22能力とは何かを具体的に解説



教材の一部を紹介します！

● 5つのICTリテラシーを身につけよう



5つのICTリテラシー: a 取得管理 (データの検索・管理), b 安全確保 (自分の身を守る), c 他者・社会とのコラボ (他者や社会と関わる), d 作成編集 (デジタルコンテンツを作る), e 活用 (デジタル技術で困りごとを解決)

● デジタル空間の特徴を知っていますか？

情報の保存性 一度投稿した情報は残ってしまう	情報の匿名性 年齢・性別などを出さなくてもよい	パーソナライズ 興味を持ちそうな内容が表示される
エコチェンバー/フィルターバブル 受け取る情報がかたよっているかも	アテンション・エコノミー 極端な情報ほど注目される	

● 各世代に身近なテーマや事例を紹介

青少年向け
闇バイト



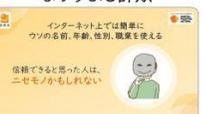
個人情報漏洩や自撮り被害などのリスクも...

保護者向け
ペアレンタルコントロール



子どもを守るための実践方法を紹介

シニア向け
なりすまし詐欺



急増する、なりすまし詐欺やロマンス詐欺なども紹介

手軽に学べるショート動画、音声説明付き動画※も用意！
(※保護者・シニア向け)




教材等の詳細はこちら！



二セ・誤情報に関する教材もあります！





21

Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

Agenda

(1) 優先セグメントごとのコンテンツ開発

- ㊦ 優先セグメント向けコンテンツの作成
- ㊧ 生成AIに関する内容を含めたコンテンツ作成
- ㊨ 啓発コンテンツを掲載するホームページのHTML作成

(2) 教える人向けコンテンツ開発

- ㊩ 教える人材を育成するためのコンテンツ開発

(3) 検定コンテンツの開発

- ㊪ 検定コンテンツの作成/参考となる手引書の作成

(4) 周知広報

- ㊫ 幅広い世代に対して注目を集めることのできる訴求力の高い手法の企画・作成・活用
- ㊬ PFer等関係者との連携による集中的な周知広報

実践的な問題演習にて到達レベル3に達しているか、個人の学習成果を測定可能な チェックテストを制作

「ICTリテラシーチェックテスト」

5つの能力領域別の設問に回答することで、必要なリテラシー到達レベル (レベル3) に到達しているかが確認可能



問題 1 a 取得管理

検索サービスの機能について適切なものをすべて選択してください。

検索サービスでは、世界中の情報を検索することができるが、著作権などの関係から検索結果に表示されない情報もあるため、検索結果に表示されないからといって必ずしもインターネット上に存在しないとは限らない。

検索結果の上部に表示される情報やサービスは、閲覧数などに基づいて表示されるため、上部に表示されるものほど信頼性が高い傾向にある。

検索サービスでは、その検索キーワードを含まない結果や、特定のサイトのみを対象に検索することができる。

3

(能力領域 a 取得管理) 正解した問題は、正誤チェックに「○」をつけましょう

問題番号	問題	正誤チェック
1	検索サービスの機能について適切なものをすべて選択してください。	
2	インターネットにはどのような特徴があるか、適切なものをすべて選択してください。	
3	スマホの写真の保存容量がいっぱいになったとき、またはそれに備える行動として、適切なものをすべて選択してください。	
		正解数合計

○の数が3問以上だとレベル3以上です。

4

解答 1 a 取得管理

能力 a-1

インターネット検索の仕組みを知って、必要な情報を探するための方法を理解する

検索サービスでは、著作権やプライバシー保護、独自の表示制限により、すべての情報が表示されるとは限りません。必要に応じて、検索キーワードを工夫したり(言い換えてみたり)、複数の検索サービスを試してみましょう。

検索結果の表示順位は広告掲載枠や独自の表示基準で決まり、上部の結果が必ずしも信頼性の高い情報とは限りません。信頼できる情報が、よく確認してみましょう。

検索サービスでは、特定の言葉を除外したり、企業などの公式サイトのみを対象に調べられるものもあります。必要な情報により早くたどり着ける可能性があるため、各サービスの特徴を理解しておきましょう。

4

22の能力のレベルは4段階(レベル1-4)あり、このチェックテストではレベル3かどうかを確認できます。まずはレベル3を目指しましょう!

レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
他律	平常時は自律	自律	他者をリード
他の人の助けがあれば能力を発揮できる	生活に必要な範囲で能力を発揮できる	一通りの基本的な能力を身につけ、発揮できる	生活の中で能力を発揮でき、他者を支援できる

2

多様な担い手が教材を作成する際の指針を解説した、解説書を制作

「リテラシー全体像の解説書」

教える人・教材制作者を対象に、リテラシー教育を通じて身につけるべき能力や到達レベルを共有



目次

- ICTリテラシーの全体像(5つの能力領域)
- ICTリテラシーの22の能力と到達レベル
- 到達レベルの評価

ICTリテラシーの全体像 (ICTリテラシーの22能力)

5の能力領域	22の能力
① 取得管理 データや情報を検索・管理する力	① インターネット検索の仕組みを知って、必要な情報を探するための方法を理解する ② インターネットでは自分が好きな情報や見つけやすいことを理解し、本当に信頼できる情報かを確認する ③ 見つけたデータや情報を保存し、整理して管理する
② 安全確保 自分の身を自分で守る力	④ 無差別に自分の個人情報が漏れることのあるから、スマホ・PCで情報を守る方法を知っておく ⑤ インターネットにある違法・有害情報やフェイク情報に気をつけて、どう対処するかを学ぶ ⑥ インターネットでの悪意ある行為に気をつけること、被害に遭った場合の対処方法を学ぶ ⑦ インターネットやスマホ・PCを使うときに、被害に遭わないための被害防止方法を学ぶ
③ 他者・社会との関わる力	⑧ デジタル技術を使って、他者とコミュニケーションを取ることができる ⑨ デジタル技術を活用して、他者と情報やコンテンツを共有できる ⑩ デジタルツールやサービスを使って、社会の問題を解決したり、役立つことをする ⑪ デジタルツールを使って、他者とつながりながら一緒に活動を進める ⑫ インターネットを交流するとき、いじめや誹謗中傷を受けた人々がいることに気をつけ配慮する ⑬ 自分個人の個人情報を適切に適切に管理する
④ 作成編集 デジタルコンテンツを作る力	⑭ デジタル技術を使って、絵や動画、音楽などを作って、自分を表現する ⑮ いろいろな情報を組み合わせ、新しい知識やコンテンツを作る ⑯ 他人の作ったものを使うとき、ルールや法律を守る大切さを理解する ⑰ コピペを使うとき、自分がやりたいことに合わせて編集して使う
⑤ 活用 デジタル技術で困りごとを解決する力	⑱ デジタル技術で問題が起きたとき、その問題を見つけて解決する方法を考える ⑲ デジタル技術を使って、自分や社会の問題を解決する方法を学ぶ ⑳ 自分や周りの人のデジタル技術を使う力を見出し、さらに使う方法を考える

5領域に対応する能力の具体例 (1/5)

取得管理	具体的には・・・
① データや情報を検索・管理する力	ウェブを使った検索ができる 情報の信頼性を分析できる
<ul style="list-style-type: none"> インターネット検索の仕組みを知って、必要な情報を探するための方法を理解する インターネットでは自分が好きな情報や見つけやすいことを理解し、本当に信頼できる情報かを確認する 見つけたデータや情報を保存し、整理して管理する 	<ul style="list-style-type: none"> ウェブを使った検索ができる 情報の信頼性を分析できる ウェブ検索の情報のうち信頼できる情報と信頼できない情報を取捨選択できる 怪しい情報は一次情報を確認できる SNSで意見を発信すると同じような意見が集まりやすくなることを理解している

到達レベルの確認

概要

到達レベルを測る確認項目は全部で22問あります。事前に学習対象者などに対して確認シートと集計シートを配布し、到達レベルを計測しましょう

活用法

以下の点を把握し、より学習効果の高い講座の実施や、教材制作に活用ください

- 学習対象者の現在のレベルは何か
- 特にどの能力に不足があり、補うべきなのか

Agenda

(1) 優先セグメントごとのコンテンツ開発

- ㊦ 優先セグメント向けコンテンツの作成
- ㊧ 生成AIに関する内容を含めたコンテンツ作成
- ㊨ 啓発コンテンツを掲載するホームページのHTML作成

(2) 教える人向けコンテンツ開発

- ㊩ 教える人材を育成するためのコンテンツ開発

(3) 検定コンテンツの開発

- ㊪ 検定コンテンツの作成/参考となる手引書の作成

(4) 周知広報

- ㊫ 幅広い世代に対して注目を集めることのできる訴求力の高い手法の企画・作成・活用
- ㊬ PFer等関係者との連携による集中的な周知広報

青少年のリテラシー学習ジャーニーにおける主な困りごと

場面	1 デジタル機器の利用	2 学校の授業や家族との会話	3 トラブルへの直面	4 トラブルへの対処	5 継続的な学習
					
困りごと	<ul style="list-style-type: none"> • "朝までスマホを見てしまった.../知らない人から友達申請がきた...と使っていてはっと不安になる" • "ネットを使いこなす友達の話も聞くけど、どう使えばよいかわからない..." 	<ul style="list-style-type: none"> • "授業で聞いたことはあるけど、自分のスマホで何をしたらよいかピンとこない" • "トラブルへの不安はあるけど、自由がなくなるのは嫌だから家族と話しにくい" 	<ul style="list-style-type: none"> • "家族に相談しづらくて、時間が経つにつれ深刻な問題になってしまった" • "大人の目が届かない、同級生や仲間うちのもめごとがトラブルに発展した" 	<ul style="list-style-type: none"> • "トラブルにあって初めて、どうしよう...とあわてて調べたことがある" • "SNSや記事に書いてあった対応をしたけど、信じて大丈夫なんだろうか..." 	<ul style="list-style-type: none"> • "ニュースや友達からトラブルを聞いたとき不安になって調べてみるけど、いろんなトラブルが出てきて何を知っておいたら十分なのかわからない"
伝えることが望ましいメッセージ	<p>自己流でスマホやネットを使っていて、"はっとした"ことや"こんなことができた"と感じたときが学びどき</p>	<p>学校で習って知っているけど、必要性を感じられないと自分の身を守れない</p> <p>フィルタリングなど具体的な防御方法を学ぼう</p>	<p>トラブルに直面したその場ですぐ対処できるかで被害の程度が変わる</p>	<p>その場でどうにかできても、根本的な解決になっていない可能性があるから、家族と相談してみよう</p>	<p>背景にあるデジタル空間の特性を学び、新たなトラブルが出てきても対処できる「継続的に学び続ける力」を身に付けよう</p>

保護者のリテラシー学習ジャーニーにおける主な困りごと

場面	1 デジタル機器の提供	2 家庭内での管理・監督	3 保護者自身の学習	4 トラブルの発見	5 トラブルへの対処
					
困りごと	<ul style="list-style-type: none"> • "学習端末をどう使っているか分からないから注意しづらい" • "特に子ども向けの設定はしないまま渡してしまったきり..." 	<ul style="list-style-type: none"> • "制限しようとする逆により隠すようになってしまいがちで言い出せない" • "毎日ずっとスマホを見ているので、依存症になってしまわないか心配" 	<ul style="list-style-type: none"> • "知識をつけたいとは思いますが、仕事や家事で疲れて、まとまった情報を遠ざけてしまう" • "学校のお知らせは似たような内容ばかりで見飽きてしまう" 	<ul style="list-style-type: none"> • "学内端末は届かないので、トラブルにあってもすぐに気づいてあげられない" • "最近、子どもと会話が少なくなって心配" 	<ul style="list-style-type: none"> • "相談もなしにフリマに出品しようとしていて...、あわてて止めた" • "自分の知識や対応力に自信がないので対処できるか不安"
伝えることが望ましいメッセージ	<p>フィルタリングなどを上手く利用して、安全に使えるような利用環境を整えてあげることが大切</p>	<p>子どもは成長途中にある存在。自由に使いたい子どもを理解しつつも、家族での約束ごとは必要</p>	<p>親が手を引いてしまうと、子どもはそのままになってしまう 保護者自身が知識を身に付けるため継続的に学ぼう</p>	<p>学校だけではなく、家庭の役割は大事 日ごろの会話や様子から異変がわかることもある</p>	<p>まずは落ち着いて状況を聞き出すことが第一歩 いざという時に保護者が守ってあげられるよう力を付けよう</p>

シニアのリテラシー学習ジャーニーにおける主な困りごと

場面	1 デジタル機器の利用	2 生活の中での学習	3 講習等での学習	4 トラブル遭遇～対処	5 更なる活用
					
困りごと	<ul style="list-style-type: none"> • "インターネットでたまたま見つけた動画を見始めたら止まらなくなった" • "メールの登録をするのが怖くて、全然使えていない" 	<ul style="list-style-type: none"> • "最初の設定は息子がやってくれたけど、何をしてくれたのかは知らない" • "SNSやアプリにまつわる怖いニュースばかりで使うのが心配" 	<ul style="list-style-type: none"> • "こんなことも知らないのだから思われるのが心配で参加しづらい" • "講習は参加者も多かったし、難しくてよくわからなかった" 	<ul style="list-style-type: none"> • "知らないメールアドレスから未払い請求のメールがきて支払ってしまった" • "困ったことが起きたときに、どこに相談すればいいのかわからない" 	<ul style="list-style-type: none"> • "スマホで仕事を探せるって聞いたけど、どこから始めたらいいのやら" • "新しいことを学んでみたいけど、お金もかかるし気がひける"
伝えることが望ましいメッセージ	<p>スマホやインターネットは適切な使い方を知れば、もっと生活は便利になる</p> <p>過度に怖がらず、基礎から学ぼう</p>	<p>人に任せるばかりでなく、自分でも使い方を学ぶことも大事</p> <p>コミュニティや周りの人とも情報を交換しよう</p>	<p>マンツーマン形式や基礎を学べるなど、自分にあう講座を選べる</p> <p>学習教材を使って、一人でも学び始められる</p>	<p>"怪しいかも?"と少しでも思ったら、一人だけで判断せずに、立ちどまって周りに相談してみよう</p>	<p>少額～無料で試せるWEBサービスもあるので、自分に合った社会参加の機会を探してみよう</p>

各セグメントごとの行動特性に応じた有望なリーチ手法

インタビュー結果をふまえた仮説

特徴	青少年層 (10代) 	保護者層 (30～50代) 	シニア層 (65歳以上) 
各世代の行動特徴	リテラシーの啓発や学習は主に学校で行われ、保護者からのリテラシー教育割合は少ない。YouTube、LINE、Instagram等SNSの利用に集中し、能動的な検索もSNSや動画サービス内で行い、ウェブと使い分けている	学校、PTAや保護者会等を通じて家庭向けの注意事項は聞かぬが、こどもの学習状況や理解度が見えないことも。情報検索ツールを使うリテラシーと頻度が高く、メディアサイト、テレビ、SNS等が日常的な情報収集ツール	インターネットやスマホの問題は携帯ショップ、ケーブルテレビプロバイダや家族・詳しいな知り合いに頼り、自習よりもハンズオン形式で教わる学習を好む。テレビやメディアサイトで情報収集し、LINEやYouTubeなどのほかSNSや動画サービスも趣味や興味領域で活用
各セグメントへのアプローチ・コンテンツの周知広報に関する検討	<ul style="list-style-type: none"> ● 地方自治体・学校: <ul style="list-style-type: none"> - 学校は青少年の主なリテラシー学習チャンネルのため、資料の配布等学校での集会や、宣伝活動、出張授業を通じて、コンテンツを周知 ● 地方自治体・学校×保護者: <ul style="list-style-type: none"> - 保護者によるリテラシー教育が少ないため、地方自治体や学校は保護者への連絡ツールでの周知等により、保護者に日頃でこどもを教育させる ● メディア・デジタルPfer: <ul style="list-style-type: none"> - TikTok、YouTube、LINE、Instagram等青少年の使用率が高いPferと連携し、青少年がリテラシーを学び意味・コンテンツの存在を周知 - 青少年が自身に特化したコンテンツを簡単に見つけるように、各Pferでの啓発ウェブサイトのSEO対策が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地方自治体・学校: <ul style="list-style-type: none"> - 地方自治体・学校、保護者会/PTA等に連携し、資料の配布、出張授業等を通じて、こどもにリテラシーを学ばせる意味や保護者としての具体的な対応ポイントを周知 ● メディア・デジタルPfer: <ul style="list-style-type: none"> - LINEやYouTube、テレビCM、チラシ等広告手段を通じて、こどものためにリテラシーを学ぶ意味・コンテンツを周知 - 保護者が自身の問題意識に特化したコンテンツやこどもに与えやすい教材を簡単に見つけられるように、各Pferでの啓発ウェブサイトのSEO対策が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 携帯ショップ等リアル拠点を持つ企業: <ul style="list-style-type: none"> - スタッフが高齢ユーザー層にコンテンツの存在・学ぶ理由を周知し、ハンズオン形式での指導を提供 ● ケーブルテレビ等ICT企業 <ul style="list-style-type: none"> - シニアはテレビでリテラシーコンテンツ広告を見てケーブルテレビ側に連絡すると、サポーターが自宅に訪問・指導 ● 自治会や町内会等地域コミュニティー: <ul style="list-style-type: none"> - 自治体や警察、職探し関連の公的機関も提供者になりうる。スマホの使い方だけでなく、フィットしやすい防犯文脈の内容をカバー。あわせてデジタルサービスを使う意味、コンテンツの存在を周知 ● メディア・デジタルPfer: <ul style="list-style-type: none"> - LINEやYouTube、テレビCM、チラシ等広告手段への反応は期待薄。行う際の内容としては、デジタルによる生活の良さ/社会課題の解決/社会参加へのシニアの関心・学ぶ意欲を喚起し、コンテンツの存在を周知

Agenda

(1) 優先セグメントごとのコンテンツ開発

- ㊦ 優先セグメント向けコンテンツの作成
- ㊧ 生成AIに関する内容を含めたコンテンツ作成
- ㊨ 啓発コンテンツを掲載するホームページのHTML作成

(2) 教える人向けコンテンツ開発

- ㊩ 教える人材を育成するためのコンテンツ開発

(3) 検定コンテンツの開発

- ㊪ 検定コンテンツの作成/参考となる手引書の作成

(4) 周知広報

- ㊫ 幅広い世代に対して注目を集めることのできる訴求力の高い手法の企画・作成・活用

- ㊬ PFer等関係者との連携による集中的な周知広報

オンライン上でのリーチ手法の実証検証結果

概要

目的

- 各世代の特徴をふまえ、効率的かつ効果的なリテラシーのリーチ手法を検証すること

実証方法

- 青少年、保護者、シニアの各世代に対して、**30秒～1分程度の短尺動画 (各3種類) の広告を出稿**
 - 青少年: 闇バイト、アテンションエコノミー、ニセ・誤
 - 保護者: ペアレンタルコントロール、闇バイト、ニセ・誤
 - シニア: なりすまし詐欺、ロマンス詐欺、ニセ・誤
- 各世代ごとに最も有効と想定されるSNS媒体を選定し出稿
 - 青少年: **Instagram**
 - 保護者/シニア: **YouTube**
- 1 動画あたり**1,000再生完了程度を目標に広告を表示**
 - エキスパートとの議論を踏まえて、1,000再生完了程のサンプル数があれば示唆の抽出が可能
 - 全体で1,000再生完了 x 9動画 = 9,000再生完了程を出稿

実施内容

- リーチ手法の定量分析**
各動画の再生完了数などのKPIを測定し、SNS広告によるリーチ手法として、効果の高い手法や動画の特徴がどのようなものかを定量的に分析
- リーチ手法の有効性の定性確認**
定量分析の裏付けとして、各世代3名ずつ (計12名) ヘインタビューを実施し、定性的にもリーチ手法の有効性を確認
- 学習効果の定性確認**
ii の対象者に対して、啓発教材がリテラシーの向上に有効であるかどうか、学習効果についてインタビューを実施し、定性的に確認

実施内容 詳細

i リーチ手法の定量分析

実施方法

各SNSに1分程度の短尺動画を出稿し、再生完了率(興味を持って見てもらえたか)、クリック数(特集サイトへのリーチにつながったか)、などを測定して分析

※配信期間は、3/4～/17までの2週間¹⁾

測定したKPI指標

効果測定に用いられる一般的なKPIをエキスパートと協議し選定

- 再生完了率 (再生完了数)

ii リーチ手法の有効性の定性確認

実施方法

- 対象) 青少年、保護者、シニア各4名ずつ
 - 各世代の中でもなるべく幅広い属性の対象者をカバーできるように調整
- 時間) 30分
- 形式) オンライン(カメラ有り)

実施の流れ

- 各対象層に、5つの能力領域のICTリテラシーレベルを測る簡易的なスクリーニングのアンケートを実施
- レベルが平均2かつ、地域や年齢、家族構成などがさまざまな候補者を選定
- 事前に各3本の動画を視聴してもらう
- インタビューにて、リーチ効果につながったかをヒアリング
 - 動画の印象や興味を持ってもらえたか
 - 動画視聴後の行動についてヒアリングなど

iii 学習効果の定性確認

実施方法

- 対象) ②の対象者と同じ
- 時間) 30分
- 形式) オンライン(カメラ有り)

実施の流れ

- ②の対象者に、啓発教材の5つの能力領域に関する箇所を抜粋して配布、事前に学習してもらう
- インタビューにて、学習効果があったかどうかをヒアリング
 - 興味を持ってもらえたか
 - ICTリテラシーのレベル向上につながったか(再度レベルを確認)など

1. プラットフォーマーとのキャンペーンのタイミングに合わせて2週間程で実施

セグメント別の定量指標 (3/4~17までの14日間配信)

■ ベンチマーク以上

■ ベンチマーク以下

対象層	動画種類	再生完了率	一般的なベンチマーク指標	考察		リーチ効果への示唆
				再生率の推移	テーマの違い	
青少年 	闇バイト (45秒)	0.09%	1.5% (一般的に30秒未満のショート動画が前提) *教育系テーマの場合は0.8%程が目安	動画が長く、開始25%でほとんどが離脱 ・闇バイトの25%再生率は教育系テーマのベンチマーク程度だが、50%では1/4に急落、75%では更に半減 ・開始25%(10s-15s)で多くが離脱している	ニュースなどでの取り扱いも多く、時事的にも話題の高いテーマ アテンションエコノミーとは何かを説明する概念的な内容が中心 社会影響を訴える啓発的な内容だが、直後に事例を配置	短い動画(15s以内)において、興味・関心にささる事例で訴求が有効ではないか
	アテンションエコノミー (1分11秒)	0.04%				
	ニセ・誤 (36秒)	0.07%				
保護者 	ペアコン (1分12秒)	67.95%	8% (一般的に30秒未満のショート動画が前提)	関心の高い動画は、一定したエンゲージメントを維持 ・闇バイトは開始と完了で8%程度しか下落なし ・ペアコン、ニセ・誤は16%程度下落	前半子どもへのリスクを紹介するも、後半はペアコンなどの概要的な説明 ニュースなどでの取り扱いも多く、時事的にも話題の高いテーマ 子どもに言及せず、保護者自身へ訴求する、啓発的な内容	1分程度の動画でも、保護者には見てもらえるため、子どもに関連した時事的に話題性のある事例を選定することが有効ではないか
	闇バイト (51秒)	86.57%				
	ニセ・誤 (1分9秒)	66.65%				
シニア 	なりすまし詐欺 (1分14秒)	72.06%	10% (一般的に30秒未満のショート動画が前提)	各動画共通して、一定のエンゲージメントを維持 ・各動画、50%再生率で約7%程度下落はあるものの、最後まで高い再生完了率を維持	金銭トラブルなど危機意識に訴求し、最新の事例も紹介 金銭トラブルなど危機意識に訴求した内容 ニセ・誤情報とは何か、影響事例などを説明する啓発的な内容	最初に一定の離脱はあるものの、スキップ習慣が他世代に比べて相対的に低いため、最初に関心をつかむと最後まで見てもらいやすい。危機意識に訴求した動画で関心をつかめるかどうか肝要ではないか
	ロマンス詐欺 (1分11秒)	69.92%				
	ニセ・誤 (1分9秒)	71.06%				

② リーチ手法の有効性の定性確認

関心のある内容と組み合わせ、目的に応じて危機意識やメリットを強調する工夫が有効

検証サマリ

定量分析の示唆

青少年層 (10代)



短い動画(15s以内)において、興味・関心にささる事例で訴求

保護者層 (30～50代)



1分程度の動画でも、保護者には見てもらえるため、子どもに関連した時事的に話題性のある事例を選定

シニア層 (65歳以上)



最初に一定の離脱はあるもの、スキップ習慣が他世代に比べて相対的に低いため、最初に関心をつかむと最後まで見てもらいやすい。危機意識に訴求した動画で関心をつかめるかどうかが必要



定性確認の考察

- 公告は習慣的にスキップする。興味があるもの(話題のニュース、好きなアニメや芸能人 など)は見られやすく、クイズの続きを隠すなどストーリーのある広告もアクションにつながりやすい
- 情報の授業などで、啓発的な内容は周知が進んでおり、一般的な事例は既視感を強く感じる

- 子どもに対してICTリテラシーが重要であるという意識や時事的な話題への関心は高く、必要に応じて具体的な方法を学びたい(学んだ)という声も多い
- 時間的な余裕がないことから、広告を見てすぐに詳細リンクにアクセスできない可能性も高い

- デジタル技術の操作などに不慣れで不安があるシニアにとって、個人情報漏洩や詐欺などのリスクに対する関心は高い
- 利用方法などを知りたいという要望はあるものの、危機意識をあおる動画では、内容だけで満足してしまい、最初の意識づけ以上のリーチにはつながりづらい

今後に向けた示唆

学校教材を想起する啓発的な印象を避け、関心があるものや、ゲーム・クイズなどのインタラクティブな形式と組み合わせることが有効ではないか

時間的な余裕も少なく、すぐに学習まで求めるハードルは高いので、子どもがトラブルに巻き込まれた場合など、必要なときに利用できる教材があることを知っておくだけでも(オンライン広告・チラシ など)も有効ではないか

目に留まることを目的とする場合は危機意識を訴求、学習を促したい場合、社会参加/活用方法/周りの人に迷惑をかけないことなどのメリットを打ち出した訴求などの出し分けが有効ではないか

③ 学習効果の定性確認

レベル2⇒3へ一定寄与できているが、特にシニアにおいては能力領域dやeのリテラシー向上には余地がある

学習効果に
ついての検証

青少年層 (10代)



どうしたら興味や
意欲を持って、
学習に取り組ん
でもらえるか

- 普段利用しているSNSやゲーム、実生活に近い事例に関連付ける
 - 切り抜きを作成する際に気を付けるポイントは？など
- 「SNSで炎上してしまった人の話」など、実際の体験を紹介する

保護者層 (30～50代)



- こどもに対してICTリテラシーを身につける重要性は理解しており、ペアレンタルコントロールなどの具体的な実践方法への興味が高い
- こどもたちの将来的なデジタル技術の動向の具体なども知りたい

シニア層 (65歳以上)



- トラブルへの危機意識が強いため、リスクなどの事例や、イラストは目に留まりやすく理解しやすかった
- 現在のページ数だと読むハードルが高く、学びの目的に応じて分冊した方が読みやすい

どうしたらICT
リテラシーに
ついて理解し、
知識習得
してもらえるか

- 学校などでの啓発も進んでおり、教材の内容も理解されやすく、より詳細な事例や新しい用語などへの注意がいきやすい
- 自主的に読み進めるだけでなく、レベルチェックなど、クイズ形式などのワークを取り入れる

- 教材全体の内容は理解されやすく、こどもを取り巻く環境や、保護者自身のリスクについても自身に当てはめながら読んでいる
- 時間的な余裕がないため、何を読むとどの知識が身についたのかすぐに分かる方が好まれる

- リスクやトラブル事例などの理解はできている一方、ICTリテラシー領域dやeを理解できたという意識が乏しい
- デジタル技術の利用方法などもより具体的に知りたい、どこを見ればいいのかすぐわかるようにしてほしい
 - 生成AIの使い方 など

今後に向けた
示唆

- リアリティのある事例や、実体験に近い事例でほど印象に残りやすいため、**時事的な内容やより年齢に応じた事例の出し分けも検討**
- 読み物的な形式よりも、レベルチェックやクイズなどの**インタラクティブな仕掛けを取り入れることが有効ではないか**

- ペアレンタルコントロールやフィルタリングなどの具体的な方法などの需要は高く、**具体的な方法を提示すると見てもらいやすいのではないか**
- 深掘りしたい箇所や目的に応じて効率的に学習を勧められる形式 (**分冊や、デジタル教材**) を取り入れ学習のハードルを下げることがよいのではないか

- リテラシー領域a～cへの理解は進んだ一方で、d,eについては本教材だけでは難しいところもあるため、**全体の導入は本教材、利活用の詳細は別教材と位置づけ組み合わせることが有効ではないか**
- 自主学習を促す場合、**目的や学びたい内容に応じて、細かく関連教材を紐づけるなどの導線を丁寧に設計することが望ましい**



Disclaimer

The services and materials provided by Boston Consulting Group (BCG) are subject to BCG's Standard Terms (a copy of which is available upon request) or such other agreement as may have been previously executed by BCG. BCG does not provide legal, accounting, or tax advice. The Client is responsible for obtaining independent advice concerning these matters. This advice may affect the guidance given by BCG. Further, BCG has made no undertaking to update these materials after the date hereof, notwithstanding that such information may become outdated or inaccurate.

The materials contained in this presentation are designed for the sole use by the board of directors or senior management of the Client and solely for the limited purposes described in the presentation. The materials shall not be copied or given to any person or entity other than the Client ("Third Party") without the prior written consent of BCG. These materials serve only as the focus for discussion; they are incomplete without the accompanying oral commentary and may not be relied on as a stand-alone document. Further, Third Parties may not, and it is unreasonable for any Third Party to, rely on these materials for any purpose whatsoever. To the fullest extent permitted by law (and except to the extent otherwise agreed in a signed writing by BCG), BCG shall have no liability whatsoever to any Third Party, and any Third Party hereby waives any rights and claims it may have at any time against BCG with regard to the services, this presentation, or other materials, including the accuracy or completeness thereof. Receipt and review of this document shall be deemed agreement with and consideration for the foregoing.

BCG does not provide fairness opinions or valuations of market transactions, and these materials should not be relied on or construed as such. Further, the financial evaluations, projected market and financial information, and conclusions contained in these materials are based upon standard valuation methodologies, are not definitive forecasts, and are not guaranteed by BCG. BCG has used public and/or confidential data and assumptions provided to BCG by the Client. BCG has not independently verified the data and assumptions used in these analyses. Changes in the underlying data or operating assumptions will clearly impact the analyses and conclusions.



[bcg.com](https://www.bcg.com)